

南西諸島における止水性ミズスマシの生息状況

北野 忠*

はじめに

近年、日本の野生生物相はその豊かさを急速に失いつつある。森林や草原、河川や海岸の消滅や改変、水質の汚濁と汚染、乱獲等の人間活動のため、多くの種が絶滅、もしくは絶滅の危機に瀕している。そのような状況の中、幸いにも、各地で野生生物の保護、環境保全、環境復元といった活動が盛んになりつつある。しかし、昆虫をはじめとする小型で人目につかない生物については、保護、環境保全対策が行われないまま、人知れず姿を消しているケースは多い。また、生態学的な知見が明らかでない種も多く、保護対策もしくは生息環境の保全対策を施しようがないのが現状である。2007年に環境省から発表されたレッドリストでは、昆虫は566種が選定されており、このうち生息域が水辺環境と密接に結びついた昆虫の割合は30%にも達している。したがって、特に日本の水環境の悪化が著しいことが明らかであり、水生昆虫の生息環境保全は特に重要な課題といえる。このような事態に対し、環境保全の実践は当然のことながら、加えて分布・生態に関する調査とその資料の蓄積を行うことが急務といえる。

そのような状況の中、本研究ではミズスマシ類に着目した。ミズスマシ類は、水面という特殊な環境に生息する水生甲虫の一群である。近年、他の水生昆虫と同様に全国的に減少傾向にあるが、未調査地域も多く、地域ごとの現状については不明な点が多い。調査範囲は南西諸島全域であるが、本報では調査の精度が高い八重山諸島3島（石垣島・西表島・与那国島）の止水性ミズスマシ類の生息状況について概要を報告する。

研究成果の概要

八重山諸島には、リュウキュウヒメミズスマシ *Gyrinus ryukyuensis*、オオミズスマシ *Dineutus orientalis*、ツマキレオオミズスマシ *D. australis* の3種の止水性ミズスマシ類が分布しており、調査した3島には各種の分布記録がある。しかし2005年以降の調査において、石垣島ではオオミズスマシのみが5地点で確認された。それに対し西表島ではオオミズスマシを確

受理日2011年11月23日

*教養学部人間環境学科自然環境課程准教授

認できず、リュウキュウヒメミズスマシが2地点、ツマキレオオミズスマシが6地点で確認された。ただしツマキレオオミズスマシが確認された6地点中4地点は偶産によるもの、もしくは池の乾燥化に伴い現在はみられなくなっている。また与那国島ではツマキレオオミズスマシのみが3地点で確認された。

これらのうちオオミズスマシは、公園の池や新たに造成された池でも確認されたことから、石垣島では今後増加する可能性もあるが、他の2種は既知産地数と比較して極めて減少傾向にあるといえる。

また例数は少ないが、リュウキュウヒメミズスマシとツマキレオオミズスマシは同所的にみられたことから、両種は共存可能であると考えられた。一方で、オオミズスマシが確認された地点ではリュウキュウヒメミズスマシやツマキレオオミズスマシはみられなかったこと、かつてのツマキレオオミズスマシの生息地が、現在はオオミズスマシの生息地に置き換わっている例があることから、オオミズスマシは他の2種とは共存しないことが示唆された。